


なのはな米1等比率95%以上を継続!!

今年も高品質で美味しい「なのはな米」づくりのため、コシヒカリは**5月15日を中心とした田植え**で高温登熟を回避しましょう。
また、田植えに合わせた播種等の育苗作業で、**健全な苗づくり**に努めましょう。

1. コシヒカリの育苗計画

消毒	浸種	播種	田植え	出穂期
4/6 (土)	4/7 (日)	4/18 (木)	5/10 (金)	8/1頃
4/14 (日)	4/15 (月)	4/25 (木)	5/15 (水)	8/4頃
4/22 (月)	4/23 (火)	5/2 (木)	5/20 (月)	8/7頃

従来よりも育苗期間が高温で推移しています。
苗の徒長や老化防止のため、播種から田植えまでの**育苗日数は20日間以内**を目安としましょう。



2. 育苗スケジュールと作業内容

※細菌性病害対策として、育苗期間を通じて目安温度より高温にならないよう注意 《換気の徹底を》

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント																		
4/15	比重選 種子消毒	水温 10℃以上を確保 (12℃が最適)	<p>①比重選で種籾を厳選。 ~病気や発芽不揃いをしっかり予防~ 硫安による発芽障害を防ぐため、比重選した種籾は水洗いを行う。</p> <p>②種子消毒は必ず化学農薬で消毒する。 モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬</p> <p>種子消毒のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種籾10kgに対し、水20ℓ、薬剤100gの割合とする。 ・水和剤は溶けにくいので、水は15~20℃のぬるま湯で必要量を準備し、よくかき混ぜる。 ・24時間浸漬中は1~2回袋を動かす。 ・消毒液の使用は1回限り。 																		
4/16	浸種	水温 10~15℃を確保 ※早生・中生品種の浸種の目安 水温 浸種日数 10℃ → 11~12日間 15℃ → 8日間	<p>③浸種の開始を早めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水温×日数=積算温度 早生、中生品種 110~120℃ 晩生品種(てんこもり等) 130℃以上 を目安にする。 ※浸種期間の後半になったら必ず芽の動きを確認し、動きがあれば浸種を終了する。 ・10~15℃の水温と十分な水量を確保する。催芽を揃えるには、浸種を開始した初日の水温確保(12~13℃)が重要です。 ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ。 ・水温が上がり過ぎないように日光が直接当たらない場所(日かげ等)に設置する。 ・水温が高くなり芽が伸びる恐れがある場合は、冷たい水に浸ける。 																		
4/24	催芽	育苗器温度 28~30℃で 20~24時間	<p>④芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・均一に催芽するために1日2~3回袋を反転させる。 ・均一に播種するために種籾の水切り(脱水)は十分に行う。(籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う。)  <p>○催芽の目安 ハト胸~2mmまで</p>																		
4/25	播種 出芽	育苗器温度 30℃で2~3日	<p>⑤播種量はうす播きが基本。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かん水量は、床土の表面に水がにじみ出る程度とする。 ・厚播き、ムラ播きに注意する。 <p>○乾籾 120gの目安</p> <table border="1"> <tr><td>芽出し籾容量</td></tr> <tr><td>200cc</td></tr> <tr><td>水切り後重量</td></tr> <tr><td>150g</td></tr> </table> <p>⑥育苗器温度は30℃が適温。こまめにチェック。 事前にサーモスタットの温度計測が正確なのか確認する。</p>  <p>乾籾 120g</p>	芽出し籾容量	200cc	水切り後重量	150g														
芽出し籾容量																					
200cc																					
水切り後重量																					
150g																					
4/28	搬出 緑化	ハウス内温度 昼: 25℃以下 夜: 10℃以上	<p>⑦芽の長さが1cmに揃ったら搬出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬出時には、覆土を落ち着かせるため、必ずかん水する。 ・緑化後は速やかに被覆資材をはずす。 ・育苗ハウスのビニールを新しくした場合、光の透過率が高いので注意する。 <p>低温が予想される場合は搬出を見送るか、搬出時のかん水はせずに被覆資材で保温に努める。</p>																		
4/30	硬化		<p>⑧かん水は朝にたっぷりを行い、日中は床土の乾きに応じて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床土の種類によって水持ちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意。 ・田植えの7~10日前からは昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす。 <p>○育苗期間中の病害対策</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗、苗立枯病</td> <td>タチガレエースM液剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>発芽後</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>かん水に用水を用いる場合は、ムレ苗に注意!</p>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																
ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回																
5/15	田植え																				

春の土づくり

高品質で美味しい米生産の土台となるのが土づくりです。

平成29年に実施した土壌診断の結果では、管内の約6割のほ場で**珪酸やカリが不足**しています(図1)。

確実に土づくり資材の施用を中心とした「春の土づくり」を実施し、地力の向上に努めましょう。

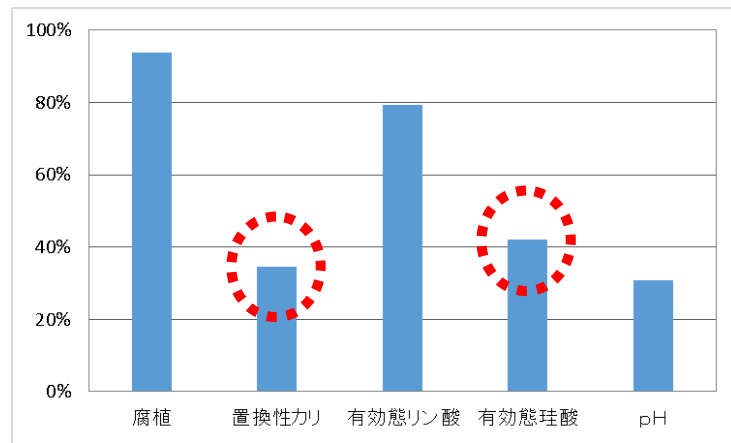


図1 土壌改良目標値を達成したほ場の割合 (H29 J Aなのはな管内 159 地点)

1. 土づくり資材の施用

※昨秋施用していないほ場は、必ず施用しましょう。

- ・珪酸には、茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があり、登熟歩合が向上します(図2)。耕起前に珪酸石灰等の珪酸質資材を確実に施用しましょう(表1)。
- ・腐植が少ない砂質や砂壤土壌等のほ場では、発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用し、地力の維持や向上(カリ等の補給効果有り)に努めましょう(表1)。

表1 主な土づくり資材の施用の目安

資材名	施用量(10a 当たり)
珪酸石灰	100～200kg
シリカロマン	60～100kg
シンキョーライトP	40～60kg
発酵鶏ふん	75～100kg (春施用)

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a 減肥する。

(例) なのはな一発基肥1号 (窒素成分21%)

40kg/10a 施用の場合、35kg～30kg/10a 程度に減肥する。

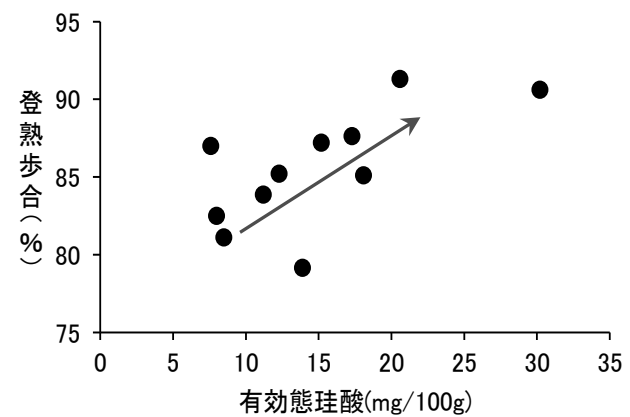


図2 有効態珪酸と登熟歩合の関係 (H26 県土壌分析結果)

2. 深耕

- ・作土層を深くすると、根圏が広がり、深く伸びた根が収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質が向上します。
- ・耕起は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さ20cmを目標に**最低でも15cm以上確保**しましょう。



春の農作業安全運動 —4月1日～5月31日—

「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」

余裕をもった作業計画を立て、作業前に機械の正しい使用方法を再確認しましょう。

なのはな農協では、皆様に**電子メールによる営農情報の提供**を行っています。

情報提供内容

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報と災害防止対策
- ・緊急的な管理情報
- ・その他必要と思われる情報

【提供情報例】

生育状況は、草丈、葉齢は平年並みで茎数は、平年より多くなっています。
コシヒカリの幼穂形成期は、平年並みの7月11日頃と見込まれます。
今後の管理は、しばらくは平年より気温が高くなることから水管理を徹底しましょう。

営農情報提供サービスへの登録はこちらから



http://argo-navi.net/ja/mb_login.php